

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## “テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』

連載第24回（最終回）

## 公安警察トップは、革マル派の手先！

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。（JR連合民主化闘争情報号外より一部抜粋）

<週刊現代2007年1月4日発売号（最終回）>

### 「JRの妖怪」松崎明が逮捕されない本当の理由

「JR東日本（会社）への強制捜査はダメだ！必要な資料は任意で提出させればいいじゃないか。とにかく、強制捜査は絶対にダメだ！」 02年11月3日、米村敏朗・警視庁公安部長（当時・現警察庁警備局長、55歳）による突然の「捜査中止命令」に、現場の捜査員たちは我が耳を疑ったという。その2日前の11月1日、公安部は、JR東労組大宮地本の副委員長で、革マル派幹部の梁次邦夫被告ら組合員7人を強要の容疑で逮捕。JR東労組本部などを家宅捜索した。・・・いわゆる浦和事件である。

「実は、公安部では7人の逮捕状とともに、JR東日本本社などの捜索令状も取り、会社に対しても強制捜査を行う予定だった。JR東日本では、浦和事件のような退職強要事件が日常的に発生しているという情報を把握していたからだ。同時に、JR東日本経営陣が、松崎に牛耳られていることも明らかだった。そんな会社が、捜査に任意で協力することは考えられず、事件の全容解明、そして松崎を頂点とする『JR革マル派』を壊滅に追い込むには、JR東日本に対しても強制捜査を行う必要があった」（捜査関係者）

「しかし、JR東日本初代監査役の柴田善憲氏（革マル派のガードマンと化したと言われている）は、子飼いの米村公安部長（当時）に直接、圧力をかけました。その日を堺に米村部長は急に消極的になった。『ここまで君を引き上げてやったのに、なぜ（浦和事件の捜査を）私に話さなかった！』と一喝されたからだといわれています」（捜査関係者）

米村氏が、これら「JR革マル派捜査潰しの疑惑」を払拭したいならば、JR東日本に巣くう妖怪、松崎明を即刻、逮捕することだ。さもなくば、国民の警察に対する信頼は、地に墮ちると警告しておく。・・・

延べ24週にわたった連載キャンペーン「テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」は今回で、いったん休載する。今年でJR各社は旧国鉄分割民営化から20年という節目を迎える。にもかかわらず、JR東日本経営陣は相変わらず、世界最大級の公共交通機関がテロリストに乗っ取られているという現実には背を向け、この「国鉄改革最大の負の遺産」を放置し続けている。最後に、JR東日本経営陣にあらかじめ通告しておこう。あなた方が国民に対する背信行為を続けている限り、私は必ず、この連載を再開し、これまで以上に「JR東日本革マル派問題」を追及していく。